

小千谷JC [新潟]

原点回帰を胸に現役とシニアが志を同じうし、 真の地域復興を目指す

「遠くへさまよう 旅人よ 聴け
この鐘のきこえる路は みな真心
へ もどる道だ」。

この詩は小千谷市内の船岡山と
呼ばれる小高い丘に立つ石碑に刻
まれている西脇順三郎の詩です。小
千谷JC初代理事長・高野雅先輩
が奔走し、第4代理事長・堀井勝
先輩の時に「舟陵の鐘」が船岡山山
頂に建設され、その時に併せてこの
記念碑が建てられました。



現役メンバーによる記念碑の清掃



清掃後の記念碑の前で(現役メンバー)



歴代理事長会議



シニアクラブメンバーも支援した「結びの灯」

小千谷

JCは柏崎J
Cをスポンサ
ーとして1959年に全国169番

目の青年会議所として発足しまし
た。小千谷市は越後平野を南北に
縦断する信濃川を母とし、その河
岸段丘沿いに興った町です。200
4年の新潟県中越地震での被災が
全国の皆様には記憶に新しいでし
うが、古くから錦鯉のまちとして、
小千谷縮を代表とする織物のまち

として、そして司馬遼太郎の「峠」
の舞台ともなった戊辰戦争の歴史
のまちとしても知られております。

その戊辰戦争において、慈眼寺会
談が決裂して河井継之助が失意の
うちに食事をした「東忠」という料
亭があります。小千谷JCの1年
の活動は現役、シニアともここから
始まります。現役メンバーの主催に
て新年祝賀会を開き、私たちシニア
クラブメンバーも参加して相互交流

が行われます。10月には歴代理事
長と、理事を中心とした現役メンバ
ーを交えての懇談会が同じく東忠
において開催され、現役メンバーか
ら歴代理事長へ一年間の活動報告
と次年度に向けての決意表明がな
されています。また新潟県中越地震
以降、震災復興活動は小千谷JC
の活動からは切っても切り離せな
いものになりつつあります。その事
業にもシニアクラブメンバーは積極
的に支援を行っており、今年開催さ
れた復興への光の道で市内を結ぶ
「結びの灯」においても多くのシニア
クラブメンバーが支援をしました。
再来年の09年に50周年を迎える
小千谷JCはこれからも現役、シ
ニア一体となって明るい豊かな小千
谷の創造に向けて活動し、そして
互いに語り続けることでしょう。

日本JCシニア・クラブ

新潟ブロック担当幹事 中澤 忍